

1999（平成11）年度 前期 京都大学 入試問題 解答例

*解答欄の行数を現在の京大入試の実情に合わせています。

問一（解答欄 四行）

上野村より筆者が歳を取るのにふさわしい場所があるであろうに、それをないがしろにしては筆者の身に差しさわりが出るかもしれないと心配しているが、この村で歳を取るなら一緒にうまく歳を取ってもらいたいと願う気持ち。

問二（解答欄 四行）

上野村で、春にはじまり晩秋の収穫とともに終わる畑仕事をしていることで、筆者も村人と同様に自然と人間の共同の世界を共有することになり、筆者を村人が一緒に新しい歳を取るべき者と認めたのであろうと考えられるから。

問三（解答欄 三行）

上野村の山里は、毎年各季節の移り変わりに応じて定まっている、自然とともに循環してくる仕事に村人が従事する、自然と人間に共有されている共同体であるという意味。

問四（解答欄 三行）

上野村の山里は、毎年季節の移り変わりに応じて定まっている、自然とともに循環してくる村の行事についても、村人たちの間で共有されている共同体であるという意味。

問五（解答欄 五行）

「仕事」は、自然とともに毎年循環し、自然と人間の共同の世界である山里の時間世界と結ばれて成立する労働である。これに対して、「稼ぎ」は、山里の時間世界から離脱し、時計の時間を基準にした時間労働として成立し、収益を上げるための経営的合理性にもとづいておこなわれる労働である。